

大人が絵本を 第97回 赤ちゃん絵本



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事/ファウンダー

絵本はアート

「絵本はアート」なんて小見出しを付けると、「今さら何を言っているの?」と思われるでしょう。今こそ、原点回帰してみましょう。

世界の絵本イラストレーションの中でも、他国では類をみない独自のアート表現をするのは、ウクライナへ軍事侵攻を続けているロシアです。ロシアの絵本をはじめて目にすると「これが絵本?」と、まず驚くでしょう。そのアートの理由は、ロシア革命後に生まれたアヴァンギャルド美術が、そのまま絵本の世界に流入したことによります。

19世紀のイギリス・アメリカの絵本イラストレーションは「物語る絵」として、当時の自国の美術とは一線を画していました。芸術がすぐに児童書に影響を及ぼす時代ではなかったころ、ロシアは独自の芸術革命を起こしているのです。

20世紀初頭のロシアは、日露戦争や第一次革命(1905)の勃発で大きく揺れています。長引く第一次大戦の重圧や飢饉の発生で労働者や兵士の不満が限界に達した1917年に再び激化し、同年秋にはレーニン率いる急進的社会主義者たちが武装蜂起を執行して、史上初の社会主義政権が誕生した歴史は、皆さま、ご存知の通りです¹⁾。

この革命を芸術の側からけん引したのが、「ロシア・アヴァンギャルド」と呼ばれる前衛芸術運動です。実業家のシチューキンらが一般公開した現代西欧美術コレクションに刺激を受けた芸術家たちが工業化・都市化の時代に見合う斬新でダイナミックな表現を追求し、さまざまな集団を形成して芸術論を闘わせたのです。ロシアの「芸術革命」は単なる表現の革新ではなく、社会革命を求めるものとして政治

革命と連動したことは、どのくらいの方がご存知でしょうか¹⁾。

そうしてロシア・アヴァンギャルドは革命後の約10年間、新時代の一翼を担う有力な運動として文化界をリードし、意欲的な絵本が作られる背景となったのです。

赤ちゃん絵本は、芸術なのだ!

欧米と異なる独特の絵本文化を発展させたロシアの美術との類似性を、日本人画家で絵本作家の元永定正氏にみるという研究報告もあります²⁾。

元永定正氏と聞いた途端、反射的に『もこもこもこ』が私の脳内に現れるのです。本連載で何度も紹介してきた、先駆的赤ちゃん絵本です。詩人・谷川俊太郎氏が、擬音語だけで表現したオノマトペ絵本でもあります。そして、それはアートブックでもあるのです。

『もこもこもこ』
谷川俊太郎 作
元永定正 絵
(文研出版)

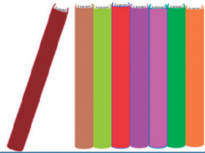


ママになりたての大人にはチンプンカンプンと評される「絵本」なのですが、子育て支援者にすすめられて赤ちゃんと読みあうと、生後数か月のわが子がニッコリするので、マジックでも見ているかのように驚き、感動するのです。

作家夫妻で紹介した元永定正氏は、前衛美術家として国内外で高い評価を得ており、現代アートをけん引してきたアーティストの一人です。シュールレアリスムやポップアートが席卷した1970年代、画家として活躍していたとき、谷川俊太郎氏と組んで生

手にするときは！

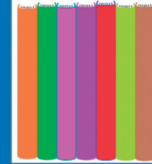
を鑑賞する



企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)



み出された芸術作品が『もこもこもこ』なのです。

ことばが重なりと物語世界が生まれる 抽象画の世界

ニューヨーク近代美術館のギャラリートークで知られたアメリカ・アレナス氏は、著書『なぜ、これがアートなの？』で、「元永は描いた作品によって私たちの想像力をかきたて、それを巧みに働かすことをうながしている」と指摘したうえで、「抽象と具象は全く異なるという私たちの観念と、相反すると思うかもしれないが、じつは、抽象画もかなり『写實的』でありうるのだ。なぜなら、ある種の抽象画は具体的な何かを鑑賞者に思い起こさせることを期待しているからだ」と元永作品と、写実画を比較して解説しています³⁾。抽象的な絵本として紹介される元永氏の『もけらもけら』や『カニ ツンツン』(ともに福音館書店)に反応を示す子どもたちには、具体的な何かが起こっているのです。

ビブリオキッズのRくんは、生後8か月くらいからつたい歩きを始めるようになると、自分で『もこもこもこ』を引っ張り出して「読んで」と訴えては、読みあうとニコニコ キャッキョッと毎日、繰り返し楽しむようになりました。保育園児の2歳台は早くも『もこもこもこ』卒業かと思っていると、幼稚園に入った3歳になって「小さいころに読んでいた本」と言って、再び繰り返し読むようになったのです。

既に絵本のことばを覚えて、司書の声に合わせて読みながら、「もこ」と現れた小さな山が、「もこもこもこ」と大きくなるページをめくった途端、毎回「わっ！」と体をのけぞらせて驚き、「つん」「ぼろり」でハハッと笑うのです。ページをめくるのもRくん、Rくんのペースでその世界が広がっていくので

すが、誤って2枚一緒にめくってしまい、ワンシーン飛ばすと慌てたしぐさでページを1枚戻す姿は微笑ましいものです。

もはや『もこもこもこ』は、Rくんの中で具体的なストーリーが展開しているのです。最初から物語を読み取ろうとする大人が、一見して捉えることのできない物語世界を、抽象画と擬音語から読み取る能力が、生後8か月児や3歳児ら乳幼児には備わっているというわけです。



赤ちゃん絵本が大人向けに一変するとき

元永氏ら現代美術家たちが、アートとしての絵本に大きな可能性を見出して数々の作品を発表してきたように、グラフィックデザイナーや染色家、彫刻家、写真家などさまざまな分野の芸術家が、絵本というメディアで、その道のアートワークを発表しています。これらについては、中川素子氏が1991年に発行した『絵本はアート』(教育出版センター)で語っています。

ここでは『もこもこもこ』を原点として、いわゆる赤ちゃん絵本のアート性に目を向けてみます。児童書の老舗である福音館書店が、子どもの成長・発達に応じて細やかに分けて発行している月刊誌のうち、「こどものとも 0.1.2.」は乳幼児向けです。対象年齢を0～2歳としています。そのイラストレーションはまさに芸術です。出版者、編集者、絵本作家たちの読書対象者に対する真摯な姿勢が見えてくるのです。子どもがはじめて触れる芸術作品にふさわしく、積極的に手渡すことのできる絵本というわけです。元永氏は、この「0.1.2.」でも『おおきい ちいさい』『わ』などの絵本で抽象画を存分に披露しています。

ビブリオビーおはなし会で、6月に活躍する『あめかな!』も「こどものとも 0.1.2.」から生まれた絵



「こどものとも 0.1.2」
2003年7月号(通巻100号)

『あめかな!』
U.G.サトー 作・絵
(福音館書店)



「0.1.2 えほん」
2009年刊

本です。雨を精巧に表現したイラストは、赤ちゃんだけでなく大人をも魅了し、おはなし会終了後に「絵本を見せてください」と言わせる芸術作品なのです。

作者のU.G.サトー氏は、企業のシンボルマークやパッケージを数々デザインしてきたグラフィックデザイナーです。2003年7月号で発表した、この月刊絵本の付録でサトー氏は、「ムラヤにじみなどを意図的に作って遊ぶのも面白いのではないかと考えた。前もって話の筋は作らず、ともかくインクと水でできるさまざまな現象に挑むことからはじめた」と述べ、色の芸術と遊びの境界を見事に融合させているのです⁴⁾。したたる水やはねるしぶきが躍動的に表現されていて、「雨」の強弱が感じられます。幼稚園児から大人までの全年齢には、アート表現のテキストにもなるものです。

『ぺたぺた』や『すすむ』も、「0.1.2.」シリーズで披露したU.G.サトー氏の芸術です。



白と黒の世界

画家で童話作家の東君平氏は1986年、46歳の若さで急逝されました。亡くなる前日まで新聞連載「おはようどうわ」を執筆し続けた君平氏は、多数の絵本と童話を後世に遺してくださいました。

白と黒の色の対比を生かした切り絵の技法が特徴で、その手法で創作された絵本『くろねこかあさん』は、君平氏の亡くなる1年前の1985年に、福音館の「こどものとも 年少版」で発表された作品です。真っ白い画面に登場するのは、黒ねこ母さんと、白ねこ3匹・黒ねこ3匹だけです。いたってシンプルな絵本ですが、白黒の切り抜きの展開がアップテンポで、

繰り返しのことばと相まって「美」が感じられるのです。イラストレーターになりたい小学2年生のMちゃんが一人で鑑賞するほどアートな本作は、君平氏が他界して4年後、単行本になった絵本です。



『くろねこかあさん』
東 君平 作
(福音館書店)

君平氏が24歳のときに上梓した絵本『びりびり』もまた、白黒の切り絵で表現されています。子どもが読むと子どもの絵本になり、大人が読むと哲学絵本に変化するのです。君平氏は、白黒のアートだけでなく、「にゃんこちゃん えほん」シリーズ(復刊ドットコム)など色鮮やかな切り絵世界も表現するアーティストです。



新人切り絵絵本作家あらわる

東君平氏が他界して約30年後、日本で新星の切り絵作家が誕生しました。ボローニャ国際絵本原画展で、2015年、2016年と2年連続して入選し、世界的デビューを果たしたのは、たけうちひろ氏です。

2015年にボローニャで入選した作品は、世界各国で絵本化され、日本でも同年に『ぼくのさがしもの』のタイトルで発行されました。翌年には『ぼくのつくりかた』(ともに出版ワークス)が入選し、瞬間に世界的に活躍する切り絵作家となったたけうち氏が、デビュー7年目の2022年に発表した新作は赤ちゃん絵本です。

元永定正氏と同名タイトルの『おおきい ちいさい』は、君平氏の手法さながらシンプルなのですが、



『おおきい ちいさい』
たけうちひろ 作・絵
(BL 出版)



『おおきい ちいさい』
元永定正 作
(福音館書店)





黄色や青色で赤ちゃんの目をひく一冊です。鮮烈なデビューを果たしたたけうち氏は、絵本作家として影響を受けた人物に、駒形克己氏の名をあげています⁵⁾。本連載ですっかり定着しましたが、当館ビブリオキッズ&ベイビーの総合プロデューサーで、ビブリオロゴのペンギンキャラクター生みの親こそ、駒形克己氏です。

駒形氏の作品を「形に囚われないデザイン思考が読み手の感覚を刺激する」と分析するのは、武蔵野美術大学名誉教授の今井良朗氏です。そしてなお、「駒形が認識し再構成する世界と、読み手が再認識し想像する世界が相互に結びついている。(中略) 駒形によるデザインとは、場と空間を意図的につくり出す行為であり、造形である」と解説しています⁶⁾。『ごぶごぶ ごぼごぼ』は高い芸術性を備えた赤ちゃん絵本なのです。

この絵の手法はなんですか

新進気鋭の若手作家夫妻が、また登場しました。彦坂有紀氏・もりといずみ氏夫妻です。

『おもち』
彦坂有紀、もりといずみ 作
(福音館書店)



この『おもち』の絵は、色鉛筆や絵の具で描いたものではありません。一冊丸ごと木版画でできた絵本なのです。お二人は2010年から、彦坂木版工房を設立し、U.G.サトー氏と同じく食品のパッケージや広告、雑貨などのイラストの仕事をしてきました。サトー氏と異なるのは、それらをすべて木版画で表現しているという点です。作品の個展を開催中に、講談社の編集者に声をかけられて、絵本界に参入するのです。

そうして、2014年にはじめての絵本『パンどうぞ』(講談社)を発行しました。あんパンやクロワッサン

などがふっふわで、しかも「ぱくっ」と食べた断面がこれまたおいしそうなのです。まさか、これが木版画で作られたパンとは信じられない絵本です。

『ケーキやけました』『コロッकेできました』『スープになりました』(講談社)。彦坂木版工房から生まれる絵本は、どれもおいしそうなできばえなのです。「どうぞ」や「あーん」のこぼれに誘導され、読む親子たちはみんな「もぐもぐもぐ」とお口を動かして賞味します。赤ちゃん向け食育絵本の仲間入りです。



赤ちゃん絵本には力がある

絵本心理学を構築する佐々木宏子氏は、「新しい日本語のリズムやメロディを生かしたテキストと、それを視覚化した絵」の赤ちゃん絵本が、「赤ちゃんの内面を通したコミュニケーションの基盤を創り上げる」と述べています⁷⁾。芸術性の高い赤ちゃん絵本は、視覚的な認識を高め、よってコミュニケーション力も高まるというわけです。紙面の関係でほんの一部しか紹介できませんでしたが、赤ちゃん絵本の見方を少し変えるだけで、育児支援に大きく影響するのです。

皆さまの周りにもきっと、アートな赤ちゃん絵本が潜んでいるはずです。



文献

- 1) 中川素子 編：絵本の事典，朝倉書店，東京，p.134-159, 2021.
- 2) 代田和輝子：元永定正の「子どもの本」としての絵本における表象－言葉と絵の関係－，千葉大学大学院人文公共学府 研究プロジェクト報告書 第349集，pp.84-119, 2020.
- 3) アメリア・アナシス 著，福のり子 訳：なぜ、これがアートなの？，淡交社，京都，p.26-39, 1998.
- 4) U. G. サトー：あめかな！，こどものとも 0.1.2. 100号，折り込みふろく，p.1, 2003.
- 5) 枚方文化環境協会：ポローニャ国際絵本絵画展 2年連続 入選！世界で活躍する切り絵作家たけうちひろさんってどんな人？，ひらいろ，枚方市観光サイト <https://hirairo.com/study/takeuchichiro-21555>, 2021/12/8
- 6) 今井良朗：駒形克己－形に囚われないデザイン思考が読み手の感覚を刺激する，絵本BOOKEND 2016，pp.19-23, 2016.
- 7) 佐々木宏子：絵本は赤ちゃんから，新曜社，東京，p.235-240, 2006.